



運動会 13日(土)



時間： 9:00～12:30

場所： 東雲本町公園

一雨天の場合、翌14日(日)ー

※翌日も雨の場合17日(水)になります。

0,1,2 歳児クラスのお友だちのプログラムは早く終わりますが、幼児クラスのお友だちの演技、競技も応援していただき、成長の過程を知る機会にさせていただけたら幸いです。そして、ご家族揃って体を動かし、楽しい一日をお過ごしください。

また、別紙プリントでお知らせしますが、早朝のテント貼りや終了後の片付けにご協力頂ければ幸いです。



高校生保育体験実習

県立広島工業高等学校の、お兄さんお姉さんが家庭科の授業の一環として実習に来ます。子どもたちは、力いっぱい遊んでくれるお兄さん、お姉さんが大好きです。そして、生徒さんたちも楽しく遊んでいるうちに子どもたちをかわいいと思ってくれるようになります。

子どもの気持ちが分かるやさしいお父さん、お母さんになってくれることを期待しています。



園児健康診断(歯科)

6月25日(木) 13:00～

お子様のことで、気になるところがありましたら、事前にお知らせください。

地震・水害に備えよう

消さないで

あなたの心の

注意の火



広島市南消防署
警防課 救助係



平成27年度 6月の園だより



<子どもの個性と主体性を伸ばすために大切なこと>

5月9日の保育参観、ひまわり会総会のあとに、この3月に卒園した子どもたちが集まり、給食のカレーを食べ近況報告してくれる会がありました。卒園してまだ1月余りではありますが、すっかり小学生の顔になっており、堂々と立ち振る舞う姿に毎年のことではありますが驚かされます。子どもたちのたくましい成長を嬉しく思います。

そうしたなか、「小1プロブレム」という言葉が随分前から言われるようになりました。いざ授業が始まると、椅子に座っていることができず、教室を歩き回るのがいたり、先生の話を見無視して友だちにしゃべりかける。なかには教室から飛び出してしまう子どもがいる状態が続くなど、小学校入学直後の1年生の状況のことを言います。幸いにも、近隣小学校の先生方から聞くところによると、みみょう卒園の子どもたちの多くは落ち着いていると聞きほっとしています。

「小1プロブレム」の問題は、家庭における教育力の低下であるとか、保育園生活で規律を教えていないことなどが原因と言われていますが、「あしなさい」「こうしなさい」「さっさと早くして」など、子どもたちに考えさせる間もなくあれこれ指示することが大きな原因であると考えています。保育園で一斉保育(皆で一緒に活動する保育時間)する場合には、どうしても指示せざるを得ない場合があります。今、まさに運動会の練習の真っ最中です。剣道やバレーなど一斉にやるプログラムでは特に指示が出がちとなりますが、日頃より話を聞く時間を意図的に設けていますので、あまり指示しなくても考えて行動してくれています。とはいえ、指示が必要な場面もあります。

しかし、しょっちゅう指示出しをしていたら、きっと指示がなければ動けない。あるいは動こうとしない子どもになってしまい、自立的な秩序観が育ちにくくなり無責任な言動が目立つようになって考えます。本来、子どもには一人ひとり状況判断ができる能力を持っています。どのような行動をすれば大人は誉めてくれるのか本能的に理解する能力を持っています。判断基準や判断能力に個人差があるのも事実ですが、過度な指示は、そ

うした生来の能力をもダメにします。子どもは大人が意図的に声かけをすると、指示を出さなくても自分たちで考え、一定の秩序のもと行動をする力を誰もが兼ね備えています。集団生活においてじっとその行動を見守ることは時間的なことも含め容易ではありませんがとても大切なことであると認識しています。

近年、指示待ち症候群の若者が急増しています。みみょうには、多くの学生が保育実習や職場体験等で出入りしますが、指示がなければ次の行動に移れないという学生が多くいます。もちろん過度の緊張もありますし、勝手な行動をしてはいけないという学校の先生の指導もあるかとは思いますが、指示され続けて育ってきた弊害が出てきていると考えます。

子どもの個性や主体性を伸ばすためには、大人がまず個性や主体性をしっかりと見極め引き出すことに尽きると思います。つまり、その子なりのよいところに気づきを伸ばしてやるのが大切であり、そのためには、どういった場面にとどのくらいの指示を出し、どういう時には信じてじっと見守るか、あるいは気づきかけを与えてやるか、大人にも状況判断が求められます。指示がなければ戸惑う子どもがいるのも事実ですが、出来るだけ指示をせず見守ってやる姿勢が大切となります。

随分昔の保育は一斉保育が主体でした。でも、その頃子どもたちは立派に成長し高度成長期の社会を担ってきました。当時の親たちは忙しく、あれこれ指示はするものの時間に余裕がなくほったらかしにならざるを得なかったからであり、ある意味、主体性と指示のバランスがとれていたからだだと思います。現代社会においては、大人がしっかりと考えたものと主体性と指示のバランスを持って時間をかけて丁寧に接していれば、個性豊かに、主体性をもった子どもに育つものと考えます。

急に真夏のような暑さになりました。子どもの身体的負担は想像以上です。しっかり睡眠をとるよう心掛けていただければと思います。

子育て応援コラム

食べ物の好き嫌いはなぜ生まれるの？

子どもの好き嫌いについて悩んでいる保護者の方も多いかと思います。しかし、好き嫌いが生まれるにはちゃんとした理由があるようです。

～苦手な味がある～

近年は研究が進み、そもそも人間には生まれつき苦手な味があるということがわかってきました。五種類あると言われている味のうち、酸味、苦味はもともと人間が嫌う傾向にあり、苦味は植物などが有害であることを伝えるサイン、酸味は食物の腐敗を伝えるサインだからです。それらを拒否するのは生きるための本能で、ピーマンやほうれん草など苦味のある野菜が多く上がる背景にはこうした理由があるのです。

～経験からくるもの～

人には食べたことのない新しい食べ物を警戒する性質があり、食べたものでお腹が痛くなった経験をしたことも好き嫌いの原因となるようです。嫌いな食べ物を食べないからと言って叱られたり、「これを食べたら遊んでいいよ」と交換条件を出されるとその食べ物の評価が下がります。さらに「元気になるから食べなさい」などと栄養面を強調しすぎると薬のようなものを連想させ、余計に苦手になることもあるようです。

～いちばん身近な人がおいしそうに食べてみせる

3歳から7歳の子どもに、その子の苦手な食べ物を親と一緒に食べるということを繰り返してやってみると、次第に嫌がっていた食材が食べられるようになったという実験結果が出ています。

大人がおいしそうに食べているのを見せたり、温かく励ましたりするのは年齢の低い子どもほど効果があるようです。

子どもが特定の食品を食べないことにやきもきして、食卓が暗くなっているのは何のための食事かわかりません。「嫌いなものはいつか食べてくれるかもしれない」と、どんと構えているいろいろな物を食卓に並べて、お子さんに食の経験を積み重ねさせてあげると良いのではないのでしょうか。

福音館書店 「母の友」より抜粋